

支援ソフト事業も魅力

ベルマーク財団が主催している「理科実験教室」や「走り方教室」が、開校の地元新聞やテレビで続々と取り上げられています。こうした教室は、財団が「ソフト」でも教育現場に貢献する目的で取り組んでいて、ベルマーク運動の大切な活動です。設備品や教材をそろえる「ハード」面と比べると、地味ですが、地元で報道されることによって広く知られるきっかけにもなります。「ベルマークの力」で、子どもたちの未来を応援したいという思いが、熊本の児童から伝わります。

出前授業 メディア関心 学校「ベルの力新しい発見」

「理科実験教室」が、開校の地元新聞やテレビで続々と取り上げられています。こうした教室は、財団が「ソフト」でも教育現場に貢献する目的で取り組んでいて、ベルマーク運動の大切な活動です。設備品や教材をそろえる「ハード」面と比べると、地味ですが、地元で報道されることによって広く知られるきっかけにもなります。「ベルマークの力」で、子どもたちの未来を応援したいという思いが、熊本の児童から伝わります。

「理科実験教室」が、開校の地元新聞やテレビで続々と取り上げられています。こうした教室は、財団が「ソフト」でも教育現場に貢献する目的で取り組んでいて、ベルマーク運動の大切な活動です。設備品や教材をそろえる「ハード」面と比べると、地味ですが、地元で報道されることによって広く知られるきっかけにもなります。「ベルマークの力」で、子どもたちの未来を応援したいという思いが、熊本の児童から伝わります。

1800万点 全国2位 愛知の社福法人「岩崎学園」



おそろいのエプロンで仕分け作業をする「若草会」のメンバーたち

愛知県豊橋市の社会福祉法人「岩崎学園」(松平下直弘理事長、56人)のベルマーク送附活動が、1966(昭和41)年の運動参加から約48年間の累計で、1800万点を突破しました。県内では初めて、全国でも上位の大規模な活動です。知的障害のある子どもたちのために、ベルマークの収集や整理活動をすすめる多くの学校やグループが支援されています。

現在の会員は、5代目会長の中川正憲さんら26人、分担しながら毎月1回の作業をしています。平均年齢は70代半ば。最近、目が悪くなったため、虫メガネや拡大鏡を使うようになったが、仕分け作業の手は休みません。「ここに来るのが楽しみ。自分たちの健康のためにも、意義ある活動です。今後も長く、活動を続けていきたいと思います。中川会長は笑顔で話してくれました。

静岡で初1千万点 静岡県浜松市西区の中野学園オイスカ高校(寺田良太郎校長、2922人)のベルマーク送附活動が、4年連続で全国1位の成績を更新しました。

素敵な木ドッキ 多目的ルームに「ふしぎな木」が出現すると、それを上回る子どもたちを呼び寄せる。その目的は、木を育て、育てた木を寄付する。木を育てる活動は、素敵な木ドッキと話し、国際的なビジネスを推進する。

クモの巣アート 奈良県東部の山あいにある御杖村立御杖小学校(中西康典校長、39人)で10月16日、ベルマーク財団の新しい取り組み「クモの巣アート」が開校されました。

走り方見違えた 秋晴れの中、京都での開催は初となるベルマーク財団の「走り方教室」が、丹波市立丹波小学校(田中孝司校長、238人)で開かれた。

駅伝もパツチリ 愛知県豊橋市の社会福祉法人「岩崎学園」が、11月12日、佐賀市立小中一貫校で開かれた「駅伝」に参加しました。

尾木さん招いて「やる気」おきた 「やる気」おきた。尾木さん招いて。尾木さん招いて。尾木さん招いて。

幻想ドームどう 駿河湾を望む静岡県西伊豆町の町立賀茂小学校(齋藤良久校長、93人)が、11月21日、ベルマーク財団が主催する「幻想ドーム」を開催しました。

